

敷島北小学校 学校関係者評価書

平成31年 2月 7日(木)

敷島北小学校 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日：平成31年 2月 7日(木) 午後2時40分～

会 場：敷島北小学校会議室

学校関係者評価委員：山本 重高 佐藤 康樹 石橋 浩二 中込 潤一 五味 和恵

永田 裕樹 槌屋 武 深沢 直人

学校側：校長：平塚 克人 教頭：松井 渉 教務主任：飯塚 正規

I 学校側から提案された内容

学校側から11月に実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」を分析し、まとめた以下の項目についての説明を行った。

(1) 説明の概要

① 「自己評価」(教職員アンケート) 結果から

I 学校教育目標・学校経営について

今年度も多くの項目について「A とてもそう思う」が一番多くなっており、教育目標や教育計画に基づいた学校経営が行われているといえる。そのなかで、「B そう思う」が一番多くなっているPDCAサイクルを生かした教育活動の実践については、改めて Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価・検証)、Action(改善)の意義とその重要性を確認し、さらに意識的・計画的に実践していくことが必要である。

II 学校運営について

全体的に良好に推移している。危機管理マニュアルに関しては、今年度も数回、地震や火災を想定した避難訓練を実施し、児童とともに職員も実践的な訓練を行うことで体験的に緊急時の対応のあり方を掴むとともに、マニュアルについても理解を深めてきた。万が一の場面が発生したときには的確な行動がとれるようにマニュアルの理解をいっそう努めていく必要がある。

学校運営に関わる事項については肯定的な評価が多く、学校が円滑に運営されているといえる。なかでも、職員会議に積極的に関わっているという職員の割合は、市全体(小学校)の割合を上回っている。本校は全学級が単学級となっているが、他の教職員と相互理解や信頼関係を深めている様子もうかがえる。

III 学習指導について

学習指導については、概ね肯定的な評価が多く、児童の様子を把握しながら基礎・基本の定着を図る授業を行っている様子がうかがえる。個に配慮した授業や評価を意識した授業、質問や発言が出てくる授業づくりなどについては、さらに改善することができると判断している傾向がある。外国語活動の指導については、教科化の実施が近づいてきており、さらに研修を深めていくことが必要である。

IV 生徒指導について

全体的に肯定的な評価になっている。キャリア教育については教育課程に位置づけてから数年が経過してきているが、その内容をきちんと踏まえた上で教科指導や生活指導を行っていくことが必要である。問題行動の早期発見・早期対応を心がけて日々児童の指導にあたっているが、日頃からさらにアンテナを高くし、児童の良き相談者たるべき姿勢を持続していきたい。

V 地域との連携について

本校のPTA活動や地域との連携について肯定的な評価が多く、学校側からも情報を発信し、保護者も協力的であるという良好な関係ができているといえる。さまざまな場面で地域の方々にご協力いただ

いて貴重な体験をさせていただいているが、さらに内容を検討したり、教材開発をしたりすることを日頃から心がけていきたい。市全体と比較して積極的な肯定が多いものの、保護者からの要望等の情報収集については、これからも受け身のみにならないような工夫が必要である。

Ⅵ 学校の特色に関して

あいさつや読書活動について、児童会や委員会が中心となり取り組みを進めて定着してきているが、教職員自身の指導という視点からみると、その取り組み方にはまだ向上の余地があるという結果である。体力向上への取り組みは、スーパー北小タイムで行ったたてわり遊びやなわとびなどの活動が全校に広がり、主体的に体を動かしている児童が多く見られた。

② 「児童アンケート結果（全体の結果）」から

学校〔1〕

学校が「とても楽しい」という児童は昨年度よりも若干増加し、9割を超える児童が肯定的な回答をしている。否定的な回答をしている児童が市全体より多いが、昨年度の本校の結果よりも若干減少している。

友達・対人関係〔2～4〕

7割近くが仲の良い友達が「たくさんいる」と回答し「いる」も含めた肯定的な回答は95%以上になり昨年度と同様となっている。相談できる友達が「いる」のは8割を超え、人を進んで助けることに肯定的な回答も同様である。

授業・学習理解〔5～9・11〕

9割近くの児童が「学校の授業は楽しい」と回答し、「先生はよく勉強を教えてくれる」に肯定的な回答は96%にのぼっている。9割を超える児童が国語や算数の授業の内容が「わかっている」と回答しているが、5%ほどの児童は内容の理解が難しいとしており、その傾向は国語でより顕著になっている。わからないことがあったときに先生に聞くのは7割強の児童で、聞けていない児童も3割近くいる。授業中に質問や意見を言うとする児童は7割弱であり、昨年度と変わっておらず、まだ発言することに対して消極的な面がみられる。

先生〔6・9・10〕

「先生はよく勉強を教えてくれる」に対して肯定的な児童が96%、「困ったことがあったら相談できる先生がいる」のが7割を超えており、教員に対して好意的で良い師弟関係ができているといえる。だが、それと比較すると勉強でわからないことを先生に聞く児童は少ないといえる。

宿題・家庭学習〔12・13〕

85%の児童は宿題を忘れずにしていると答えており、「よくしている」児童の割合は昨年度より多くなっている。学年の目標時間の勉強については、いつもしているのは4割弱であるものの、「だいたいしている」まで加えた肯定的な児童は7割強になる。しかし、宿題と家庭学習について、ごく少数ではあるが「していない」と回答している児童もいる。

家庭〔14・15・17〕

家の人と学校での様子を話している児童は8割弱であり、多くの家庭では日常的に学校の様子について保護者とやりとりをしている様子が見ええる。就寝時間については約75%の児童は午後10時までには就寝しているものの、午前0時近くまで起きている児童も見受けられ、午前1時過ぎとする児童もいる。朝食をいつも食べている児童は昨年度よりも増加し、「だいたい食べている」までを含めると95%以上が食べているが、食べていない児童もみられる。

地域〔16・18〕

地域の行事への参加については、8割近くが肯定的な回答であるが、昨年度と同様、「参加していない」とする回答も1割近くある。地域の人とのあいさつの様子は、9割以上が肯定的であるが、「よくしている」という積極的な回答が昨年よりも若干減少している。

読書〔19・25〕

家や図書館での1日あたりの読書時間は、30分から1時間未満という児童が最も多かった。昨年度よりも2時間以上とする児童が増加し、「全くしない」児童も増加している。本を読むことについて8割以上の児童は好意的な回答をしており、これまでと同様の高い割合を示している。

夢・希望〔20〕

将来の夢や希望を「しっかり持っている」「持っている」を合わせると約85%となるが、昨年度や市全体と同様である。

きまり・約束〔21〕

学校のきまりや約束ごとを守ることにについて、9割以上が肯定的な回答をしており、「よく守っている」は昨年度同様に市全体を上回っている。

勤労〔22・23〕

清掃活動に「しっかり取り組んでいる」「取り組んでいる」とする児童が94%を超え、全校的に、きちんとした取り組みの様子がうかがえる。委員会活動については、取り組んでいないという回答は無く、役割をきちんと果たそうとしている高学年の姿を見て取れる。

聞く・話す〔26・27〕

「先生や友だちの話をしっかり聞く」については、「よくできている」は昨年度と同様で、「できている」までの肯定的な回答の割合は9割以上になっている。「自分の考えを話すこと」については、話を聞くことよりも消極的な傾向がみられるものの、授業中の発言の様子よりも肯定的な回答が多く、普段の場面では自分の考えを伝えようとしている姿がうかがえる。

③ 「保護者アンケート結果」から

学校全般〔1・3・4・5〕

児童にとって学校は楽しいところだとする肯定的な回答が9割強で、昨年度よりも若干増加している。学校からの情報で様子をを知ることができるというのが9割以上、授業参観などが様子を知る機会になっているとするのが97%ほどになっており、保護者が学校の様子を知ることができている様子がうかがえる。保護者・地域の声に耳を傾けていることに肯定的な回答は8割弱である。

友達〔2・14〕

9割以上の保護者は子どもの仲の良い友達を知っているとしているものの、相談できる友達がいるとするのは63%ほどであり、昨年度や市全体と同様である。

学校の指導〔6・16・23〕

子どもの間違った行動への指導は約76%、挨拶の指導は約70%、学校行事や児童会行事の取り組みについては約87%が肯定的な回答であるが、昨年度と市全体を少しずつ下回っている。

家庭でのしつけ・指導〔7・17・18・25〕

しつけによく力を入れているとする保護者は約15%であるが、市全体と同様の傾向を示している。あまり力をいれていないとする回答と同様の傾向を示している。家庭での互いの挨拶を積極的にしている家庭は昨年度を若干下回った。地域の人と出会ったときの挨拶をするようによく言っているのは、昨年度とほぼ同じ割合であるが市全体を上回っている。子どもが家で学校の話をよくする割合は昨年度より減少し、あまりしないという家庭が増加している。

学習理解・授業〔8・11〕

授業の内容の理解については8割強が肯定的で市全体を上回っている、学校の授業への取り組みについては9割弱が肯定的で市全体とほぼ同じであるが、ともに積極的な肯定が昨年よりも減っている。

睡眠・朝食〔9・10〕

子どもの平均睡眠時間は8時間以上とする保護者が9割を超えているが、昨年度よりも若干減少している。朝食については、95%以上が食べているとしており、「いつも」食べているという回答は昨年

度より若干減少している。

宿題・家庭学習・読書〔12・13・22・24〕

宿題への取り組みは約94%が肯定的に回答している。家庭での自主学習については、肯定的な回答が5割弱となり、昨年度よりも減少している。家での読書については、10分未満が増加し、1時間以上が減少している。全くしないのも一定数みられる。子どもが本を読むことが好きだと思ふ保護者は若干減少している。

対先生〔15〕

子どものことで相談できる先生がいるという保護者は7割強で昨年度を上回っており、「いない」という否定的な回答は減少している。

地域〔19〕

地域の行事に子どもが参加していることに約73%の保護者が肯定的であり、昨年度と同様の傾向をしめしている。

PTA〔20〕

8割弱の保護者がPTA活動の参加に肯定的であり昨年度や市全体とほぼ同じである。

夢・希望〔21〕

保護者の8割以上は子どもが将来の夢や希望をもっているにとらえている。

④ アンケートの相関から

教職員—保護者

「保護者・地域の声に耳を傾けている」という項目については、教職員も保護者も肯定的であるが、肯定のうち「とても思う」という評価は教職員（約36%）と保護者（約12%）と隔たりがある。「保護者のPTA活動への参加」については、教職員の全員が肯定で、約60%は「よく参加している」としているのに対し、保護者の「よく参加している」は約26%となっている。教職員が保護者の活動を総括的に見るのに対し、保護者は個の視点で判断しているという違いにもよると思われる。

教職員—児童—保護者

学習指導について、児童の約73%が「よく教えてくれる」と評価しているのに対し、教職員は「学びの意欲を喚起する授業行っている」について「そう思う」とするものが約43%、保護者では「熱心に授業に取り組んでいる」について「とてもそう思う」が約25%となっており、相対的に保護者の評価がやや低い様子がみられる。また、規範意識の高揚についても、児童は約63%、教職員は約37%が「きまりや約束を守るようによく指導している」としているのに対し、保護者で「よく指導している」と回答したのは約16%となっている。

児童—保護者

児童の友達関係について、「困ったときに相談できる友達」が「いる」と約83%の児童が答えているのに対し、保護者が「いる」としたのは約63%で、約17%の保護者は「わからない」との回答であり、友達の把握が難しい様子がうかがえる。宿題については、「よくしている」と回答した児童は、約66%で、保護者が59%、「している」と回答したのは、児童が約19%、保護者が35%と、やや隔たりがあり、保護者は子どもが宿題をしていると思っているが、実はあまりやっていない児童もいるということがいえる。

（2）今後の方針

① 「自己評価」（教職員アンケート）結果から

- ・ 全学級が単級であり、学級担任の役割や校務分掌の負担が多くなるとともに、他の教職員との連携や意見交換等がなかなか持ちにくい状況もある。児童の指導に担任だけが関わるのではなく、全教職員で敷島

北小学校の子どもたちを育てていることを、教職員一人一人が常に意識し、報告、連絡、相談、確認をお互いに率先して行いながら、共通理解のもとで教職員集団として児童の指導にあたり、よりよい学校運営をめざしていく。

- ・ 児童の行動や状況で問題な点や気がかりなこと等については、職員会議で共有化を図っている。今後も問題行動の早期発見に努めることは当然であるが、その対応には全教職員が同一の方向性を持ち、学校として一貫性をもった指導を行っていく。

② 「児童アンケート」結果から

- ・ 全ての項目で肯定的な回答をしている児童が多いが、項目によっては否定的な回答をしている児童が少なからずいる。そうした状況について全教職員が共通認識をもち、児童一人一人に、より一層の目配りや心配りをしながら、情報を共有しつつ、児童の個に応じた指導を心がけて、全校体制で指導にあたっていきたい。
- ・ 多くの児童が、学校が楽しく、勉強もよく教えてくれると評価していることを糧にして、そうした気持ちに応えるべく、児童がより良い学びができる授業や、毎日が充実した学校づくりをしていくために、指導の工夫や改善を積み重ねていくとともに、児童が喜びを感じ取れるような諸活動の運営を進めていきたい。

③ 「保護者アンケート」結果から

- ・ 多くの保護者に、子どもにとって学校は楽しいところであるととらえていただいております。そうした思いをこれからも持ち続けてもらえるように、保護者、地域住民、教職員が一体となり、より充実した教育活動を行っていくために、常にアンテナを高くし、開かれた学校づくりを進めていきたい。
- ・ 保護者が、学校での学習指導や保護者との連携に概ね満足はしているものの、十分な満足までには至っていないという結果を念頭に置き、現状で良しとせず、日頃の1時間1時間の授業を大切にして児童の学力の向上を図るとともに、保護者との連絡を密にして期待や希望を酌みつつ、積極的に家庭に学習の様子を伝え、理解を深めてもらうように努めていきたい。
- ・ 人数は少ないものの、保護者アンケートで「D」と回答された項目がある。また、肯定的であっても、全体的に「B」の評価が多くなっている。これは、保護者がより向上することを期待していることの表われととらえることができるが、保護者の期待に十分に応えられていないこともあるといえるだろう。そうした背景を考察して保護者の気持ちを理解しつつ、ともに児童の健やかな成長に寄与できるよう、より一層連携を密にして、改善を図っていきたい。

Ⅱ 協議された主な内容 (Q…評価委員 A…学校側)

学校関係者評価委員会に先立ち、5校時帯に授業参観の場を設け、学校の現状、児童の様子などを観察していただいた。3、4年生の授業参観もあって保護者の参観の様子も合わせて見ていただいた。

① アンケートについて

- (Q) アンケートの回答方法は、どのようになっているのか。記述欄はないのか。
- (A) マークシートでの回答で、無記名である。職員には記述欄がある。

② 自己評価について

- (Q) 肯定的な意見(A及びB)の回答数は昨年度と変わらないが、A評価のみを見ると昨年度より控えめであるが、どういうことか。
- (A) 全体的に、そのような回答になっている。本年度の教職員は、昨年度に比べ、さらに自己に厳しい評価をしたと考えられる。
- (Q) IV-4(問題行動の早期発見・早期対応ができています)及びIV-5(職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている)の項目で、本年度の先生方の考え方だと思うが、昨年度に比

べ、A評価が少なくなっている。若い先生方が増えているとも聞くが、今は、インターネットなどを使って、自分の力で解決する人が多いということが、他の社会でもある。同じ職場なので、同じ方向を向いての対応や課題解決、情報共有等を行ってほしい。

(A) 生徒指導に関して、月1回の職員会議で全職員で共通理解を図っている。地域とも連携し、情報もいただいているので、今後、さらに、共通理解を図っていきたい。

(Q) II―8（校内研究に主体的に関わっているか）の項目に対し、6人がD評価と回答している。どうということか。

(A) 本校職員は、県費、市単がおり、さらに、1日勤務、半日勤務と分かれている。そうした中、時間的にも、精神的にも、十分ではないと感じた職員がいたと考えられる。

③ 児童の友達関係について

(Q) 児童アンケート3「困った時に相談できる友達がいる」及び10「相談できる先生がいる」の項目でD評価と答えている児童は特定できているのか。もし、できていれば、適切に対応をしてほしい。

(A) 学年は絞れるが、無記名なので、児童名は特定できない。子どもなので、そのときの気持ちで左右されることもあるが、子どもの日常会話から、いじわる、仲間はずれなどがクラスの間人間関係に大きく影響するクラスもある。児童との個別の面接や保護者との対応を迅速に丁寧に行うことで解決してきた。

学校としてもクラスの間人間関係を分析し、学級の中へ投げかけ、問題を一人一人の児童が自分の事として考えさせる必要がある。

④ 読書について

(Q) 児童アンケート19（家や図書館で平日1日あたりどのくらいの時間、読書をしますか）の項目で、10%が2時間以上、20%が1時間以上と回答している。家へ帰ってからのことを考えると、読書の時間がよくとれていると思うが、どのように考えるか。

(A) 図書館と書いてあるので、学校での読書の時間を入れていると考えられる。

全く読まないと回答している児童がいることも心配である。そうした児童は、読みたい本が決まらないという実態がある。読書習慣をしっかりと身に付けさせなければいけない。

⑤ 挨拶について

(Q) 保護者アンケート17（家庭では家族で互いに挨拶をするようにしている）の項目で、A評価以外の家族は、家族同士で、挨拶をしていないということなのか。

(A) （他の評価委員さんから）家族だと逆に言わない場合もあるのではないかと。高学年になると、なおさら。

⑥ 関係者評価委員さんから一言

- ・ 班編制を工夫したり、役割分担をしたりして行うワークショップ型の学習は、友だちとの協調性を養え、とてもよい。
- ・ 過疎化・核家族化の中で、高齢者・子ども・大人が同じテーブルで、未来予想図を話し合うワークショップ型の学習も必要か。また、学年を超えたワークショップ型の学習もやってもらいたい。
- ・ 我々が参観するのは午後で、芸術科目である。児童の実態から、午前中に、算数・国語に取り組んでいると思うが、算数や国語も参観できるようにしてもらいたい。
- ・ 1年生で歌っていた歌は、オリンピック関係の歌であった。時期を得た学習はよいと思う。

＜学校関係者評価書＞

I 全体評価

- 1 教職員が自信をもって教育活動に取り組むことが、児童の積極性につながるので自己評価で「A評価」が多くなるよう努力してほしい。
- 2 学習したことが分かる楽しい授業，クラスの中でお互いを認め合い，お互いを大切にできるクラスづくりがどの学年でも行えるようになってほしい。
- 3 児童アンケートの「学校は楽しい」「仲良く遊ぶ友達がいる」「わからないことは先生に聞ける」などの項目で，さらに「C評価」が減り，「A評価」が増えるように取り組む必要がある。

II 特 徴

- ・ 今回の教職員の自己評価，児童及び保護者アンケートの結果から，全体的に「A・B評価」がほとんどを占めて，良好な結果であった。しかし，児童アンケートで「A評価」の割合が下がった項目は取組が必要である。
- ・ 児童アンケートで，授業中に質問や意見を言う児童が増えてはいるものの，市全体との比較では「A評価」の割合が少ない。
- ・ 本校は，PTA，おやじの会，母親の会などの地域の協力を得ており，子どもたちの教育環境は良好であるが，児童アンケートでは「地域の行事に参加する」という項目で，積極的な回答が市全体よりも低いので，家庭への啓発も必要である。

III 今後の課題として意識されたこと

- ◇ 「学校が楽しくない」「仲良く遊ぶ友達がいない」「困ったときに相談できる友だちがいない」と感じている児童がいることは課題である。「Q-U検査」の結果等も踏まえて，注意深く見守る必要がある。引き続き，発達段階に応じた指導・支援に力を注ぎ，きめの細かい学級指導をしていく必要がある。
- ◇ 教職員間の共通理解を図り，短期的，長期的両方の視野をもち，さらに充実した指導・支援体制を築いていくことが望まれる。

記載責任者 敷島北小学校学校関係者評価委員 永田 裕樹